地質ニュース635号，66－67頁，2007年7月
Chishitsu News no.635, p.66－67, July, 2007

日本におけるジオパークの推進に関する提言

Wolfgang Eder[1)]

提言の背景

地球科学はどんな学問で何を目指すかについて，最近10年ほどの間に世界的に大きく考え方が変わった．「地下水」「地球温暖化」「自然災害の軽減」および「地下資源」といった従来より重要とされているテーマに加えて，地球科学関係の国際学会の関心の対象として，「ジオパーク」「地質遺産とその保全」あるいは「ジオツーリズム」といったテーマが新たに加わった．一見古くさい，古生物学，層序学，野外地質学，地形学および鉱物学などの伝統的な研究も，改革され見直されて装いを新たにしている．

2004年12月にインド洋で発生した津波のような悲惨な自然災害の対策を考える中で，政治家，地球科学者，教師そして旅行業者など多くの人々が，「地球システム」が一般の人にもっと理解されなくてはならないと考えるようになり，そのために行動するようになった．また，2000年に国連は「ミレニアム宣言」の中で，大自然の価値の理解を通して「自然の尊重」が実現されるよう訴えた．2005年に始まった「持続可能な開発のための教育10年」と，2015年までに実現すべきである「万人のための教育」プログラムが国連で取り組まれている（どちらにも地球科学が含まれている）．さらに，2008年を「国連国際惑星地球年（IYPE）」とすることが国連より宣言されている．

「ジオサイト（地質学的に重要な場所）」「ジオトープ（ジオサイトとほぼ同じ．ドイツで使われる）」「ジオダイバーシティ（地質多様性）」や「ジオツーリズム」といった単語は一般的な言葉になりつつある．「地質遺産」に関係する，世界の各国各地域に住む多くの人たちが一体となって，現代の地球科学に対する社会の見方を動かし変えてきた．ユネスコのプロジェクトである世界遺産と生物圏保護地域，および世界ジオパークネットワークの下で推進されているジオパークは，研究と自然教育，さらにはレクリエーションに役立ち，観光を通じた地域の経済開発にとって大変魅力的な仕組みであることが理解されるようになってきた．本特集号のPatzak，Missoten両氏，Zouros氏による解説は，世界ジオパークネットワークがどんな活動をしており，それに加盟して活動を行うジオパークはどうあるべきかをまとめている．

「地質遺産」に関係する組織，団体ないしグループが世界中の様々な国にある．たとえば，英国のEnglish Nature，Scottish Nature，Welsh Nature，Irish Natureとそれらの連合であるJoint Nature Conservation Committee（JNCC），中国の国土資源部と中国科学院，ドイツのアルフレッド・ウェーゲナー研究所，研究教育省，ドイツ地質学会のジオトープセクションなどが地質遺産に関わっており，オーストリア，スイス，フランス，スペイン，マレーシア，オーストラリア，ナミビア，カナダ，ブラジルにも地質遺産を担当する組織やグループがある．加えて，各国の地質調査所がジオパークに関する部署や，担当者を置いている．こうした多くの関係者が，ユネスコ，国際地質科学連合（IUGS）と連携を取りつつ地質遺産に関わる様々な活動を援助してきた．

国際的な活動は次のような団体によって担われている．ユネスコの支援する世界ジオパークネットワーク（GGN：パリに事務局長がおり，北京に事務局がある），ヨーロッパジオパークネットワーク（EGN：フランスのディーニュに事務局がある），ヨーロッパ地質遺産保護協会（ProGEO），ユネスコの世界遺産委員会とMAB（人間と生物圏計画）および国際自然保護連合（IUCN）．また欧州連合（EU）の理事会，国際地質科学連合（IUGS），国際地理学連合（IGU）および国際地形学者協会（IAG）は地質遺産保護に関心を持って

1）元ユネスコ地球科学部長，ミュンヘン大学気付

キーワード：国際地質科学連合（IUGS）

いる.

日本における今後の活動への提言

今まで述べたような国際団体の活動方針と, 2006-7年のユネスコのプログラムの中では, 地球科学に関して次のようなことを行おうとしている.

・IGCPを通じて地球科学を発展させ, 地球科学の知識がよりよい社会・経済の開発計画につながるようにする.
・発展途上国における地球科学のネットワークを強化する.
・持続可能なジオツーリズムとジオパークにより, 地質遺産の普及をはかる.

日本のジオパーク活動への貢献に関しては, 次のような項目を参考にされるよう提言したい.

1. ジオパークを推進し, 一般市民と地球との関係を変える. そのために次のようなことを行う.
・人々に自分の住む地域の特性をよくわかってもらい, 地域文化のルネッサンスを促す.
・地域の生活条件と環境を向上させる.
・環境を尊重することを訴える.
・地域の人が, ジオツーリズムを通じて今までにない事業を興して新たな収入の道を得られるようにし, 投資を引きつける.
2. ジオパークに対する支援とその効果をきちんと検証し, ジオパークを地域開発の手法の実験の場として研究する. 評価すべき点は以下のとおり.
・新たに導入された投資と公的資金
・運営委員会
・スポンサー
・科学担当者
・アウトリーチ活動
・推進活動
・地域・広域・国レベルの支援グループ
・道路, 建物, 博物館, トレーニングコース, レンジャー, 散策路, スタッフなどジオパークのためのインフラストラクチャー
3. ジオパークを国際協力のための枠組みととらえ, 以下の活動を行う.
・ジオパークがジオツーリズムの発展にもっと役立つものになるように, 世界各地のジオパークで役立つような新たな活動を試して実用化し, 地域のジオパークが国際社会に貢献できることを示す.
・文化・教育・科学などさまざまな面において, ジオパークを設立しようとする各国がまんべんなく情報と経験を共有できるよう, 世界ジオパークネットワークの運営に参加する.
4. ジオパークがレクリエーションを楽しみ地球について学ぶ場となるよう, 活動においては以下の点に留意する.
・ジオパークは地球のダイナミックな形成史と生命の歴史の記録という時間・空間の情報を提供する他にはない中核的な拠点である.
・ジオパークによって, その国の古生物学・地質学・地形学的な記念物が世界に広く認知される.
・ジオパークによって, 自然(生物も無生物も)と文化と産業の密接な関係をよく理解できるようになる.
5. ジオパークを国連国際惑星地球年のアウトリーチ活動の手段として活用する
6. 国連国際惑星地球年をジオパークと地球科学の振興のまたとない機会として活用する.

最後に付け加えるが, 日本の地質遺産保全とジオパークに関わる人たちが,「Geoheritage」という新しい雑誌(Springer社発行. ProGEOのJ. Brilha氏とW. Wimbledon氏により提案された)に寄稿されることを期待したい. この雑誌は, 地理学者, 生物学者, 景観設計者, 博物館職員, 科学史研究家, 環境地質学者, 都市計画に携わる人, 公的機関で自然保護と開発, 開発が環境に与える影響, ジオツーリズムあるいは中等教育に携わる人, さらに研究者と学生・大学院生地球科学者を対象としている.

日本語訳は渡辺真人(地質情報研究部門)が担当した.

WOLFGANG Eder (2007) : Promotion of Geoparks in Japan: Recommendations.

＜受付：2007年4月2日＞